

京都大学医学図書館における秘書向け講習会の開催事例

菊池 香織*

京都大学医学図書館（京都大学医学研究科教務・学生支援室図書掛）

I. はじめに

京都大学医学図書館（以下、当館）では、従来、年度初めのガイダンスにおける図書館利用案内や、教員との連携による授業での文献検索演習、また Web of Science 等のデータベース講習会や EndNote・RefWorks 等の文献管理ツール講習会を行ってきた^{1), 2)}。

これらは、医学研究科の大学院生や附属病院の医師などを主な対象者として開催している。だが、彼らは研究と業務で多忙な日々の中、論文執筆等を行っているため、図書館で資料を借りたり、文献の取り寄せを申し込んだりする作業を、研究室の「秘書さん」に頼んでいる場合が多い。

本稿では、その「秘書さん」をターゲットに、当館が 2012 年度に初めて開催した講習会について報告する。

II. 開催までの経緯

筆者は当館の閲覧業務を担当しているのだが、カウンターではベテランの秘書さんが慣れた手つきで書庫の資料を借り出していく姿を見る一方、教員から渡された文献リストを手し、困った表情で尋ねてくる秘書さんや、学内にある資料を見つけられずに学外からの取り寄せを依頼してくる秘書さんの姿を見かけることも多い。

先述した年度初めのガイダンスは、新大学院生と新任研修医・医員のみを対象に実施しており、事務職員として採用される秘書さん（採用身分は「事務補佐員」「教務補佐員」が多数）には受講資格がない。また、各種講習会についても、主な受講者である大学院生や医師らが参加しやすいよう、開催時間をあえて勤務時間後の夕方以降に設定している（例えば、16:30 - 18:00）。これらのことから、秘書さんは学生・研究者と同じく重要な利用者層でありながら、当館が実施する講習会等に参加しづらい状況におかれていたといえる。以上のような背

景から、秘書さんを対象にした図書館講習会を新たに開催しようという企画が進み、筆者が主担当を務めることとなった。

III. 講習会の実施

1. 開催計画

講習会は、「秘書さんのためのスキルアップ講座（初級）：文献検索の基礎」と題し、内容を初級編に設定することで、文献検索に苦手意識を持っている秘書さんにも気軽に参加してもらえるよう心掛けた。開催時間は秘書さんが勤務時間内に受講できるよう、午前中に 60 分の枠を設けた（10:30 - 11:30）。

なお、受講形式について今回重視したことは、1人1台 PC を操作するという実習形式としたことである。当館で開催している各種データベース等の講習会は、大教室を貸し切り、講義中心で行っている。しかし、この形式では、受講者が実際の画面操作を手元で確認できない点や、一人一人の理解度を確認しながら進行することが規模的に難しい点などが、結果的に受講者の理解不足を招いてしまっているのではないかという懸念があった。そのため今回は、各回の定員を、講師役と補助者役（2～3人）でサポートできる範囲に留めることとし、開催場所には、PC の実習が可能な図書館 1 階の情報コーナーを選んだ。

2. 広報

当館ウェブサイトに講習会の開催要項と申込みフォームを用意し、広報用のポスターを作成した（図 1）。また、医学部・医学研究科（附属病院を含む）とその関連部局へ、メールで開催要項を通知し、参加者の募集を行った。驚いたことにメール配信直後から申込みがあり、当初開催を予定していた 2 回の定員（約 10 名）がすぐに埋まってしまった。そのため、急遽開催日を追加し、1 回の定員を用意できる PC の上限である 9 名まで増やした。初めての試みで集客に不安があったが、予想を超える反応に手ごたえを感じるスタートとなった。

*Kaori KIKUCHI: 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田近衛町.
medlib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp (2013 年 5 月 30 日 受理)

初 級

秘書さんのためのスキルアップ講座 2012

文献検索の基礎

「文献リストにのっている論文を効率的に集めたい」
「ほしい論文が見つからない」などでお困りではありませんか？
日々の文献検索に役立つノウハウを図書館員が丁寧に説明します。

第1回 10月16日(火) 10:30~11:30
第2回 10月22日(月) 10:30~11:30
※2回とも同じ内容です

場 所 医学図書館1階 情報コーナー

内 容 * レクチャー：文献の検索から入手まで
* KULINE/医中誌 Web/PubMed などデータベース検索実習
* 質疑応答

対 象 医学研究科・医学部および関連部局のスタッフの方
(研究室秘書の方など。その他の方も歓迎いたします。)

問 合 先 京都大学医学図書館閲覧掛
Tel: 075-753-4323, E-mail: ref@office.med.kyoto-u.ac.jp

各 回 定 員 5 名 (申込先着順)

下記フォームからお申込みください
http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/orientation/bunken_hisyo/

図1. 広報用ポスター

3. 開催内容

当日は、PowerPointで作成したスライドを壁に投影し、筆者が講師として説明および操作デモを行った。

内容は主に次の5項目で構成した。1) 京都大学蔵書検索システムKULINE（クライン）の使い方、2) 参考文献の役割と見方、3) 医中誌WebおよびPubMedの使い方、4) リンクリゾルバを使って本文を入手する方法、5) 文献の取り寄せ方法、である。以下に各項目の概要とポイントを挙げる。

1) KULINEの使い方

京都大学（以下、本学）は、中央図書館である附属図書館の他、各学部に図書館・室があり、すべて合わせると50以上にもなる。KULINEでは、学内図書館・室の所蔵資料および学内で利用可能な電子ジャーナル・電子ブックが検索できる。2012年8月に画面が大幅にリニューアルされ、従来の検索機能に加え、文献データベースの横断検索や、貴重資料画像検索、国内外OPACの横断検索、本学学術情報リポジトリ検索機能が追加された。秘書さんに、文献検索の入口としてKULINEを使ってもらおうと、講習会の最初に実習を取り入れた。

練習問題では、雑誌タイトルが省略形しかわからない時に便利な前方一致検索の方法や、一般的な単語のタイトル（例「Cell」）の場合に便利な完全一致検索の方法を紹介した。このとき、電子ジャーナルが利用可能な雑誌は、KULINEの冊子体所蔵を確認する画面からアクセスできることも伝えた。

2) 参考文献の役割と見方

研究における文献調査の重要性と、引用文献の見方について説明し、情報源となる文献の種類によって記載方法が異なる点を解説した。教員から「この文献リストに載っているものを集めてほしい」と依頼された場合、まずその文献の種類を特定できれば、それを入手するために使う検索ツールが選びやすくなるため、代表的な記載事例として雑誌論文と単行書の引用方法を確認してもらった³⁾。

3) 医中誌WebおよびPubMedの使い方

研究者が文献収集で使用する代表的なツールとして、医学系論文データベースである医中誌WebとPubMedを取り上げ、基本の検索方法を説明した。

医中誌Webでは、キーワードから検索する通常の検索画面のほか、部分的な書誌情報から検索するとき便利な「書誌確認画面」での検索方法を実習した。これは、教員から渡された文献のメモに情報が少ないときに便利である。なお、本学では医中誌Webの同時アクセス数が通常4名までのため、あらかじめ医中誌刊行会に依頼し、講習会当日のアクセス数を増加してもらった。

PubMedについては、秘書さんの間でも有名であり、ぜひ使い方を習得したいという声が上がっていた。本学では、PubMedの検索結果にリンクリゾルバが表示される京大専用URLを取得している⁴⁾。PubMedの一般利用者向けURL⁵⁾ではなく、京大専用URLを使うことで、検索結果から本文を入手する手順が簡便化される点について解説した。なお、部分的な書誌情報から簡単に検索できるSingle Citation Matcherの実習も行った。

4) リンクリゾルバを使って本文を入手する方法

本学ではSerials Solutions社の360Linkを契約しており、学内で利用可能なデータベースの多くにリンクリゾルバ「京大Article Linker」が表示される。京大Article Linkerには、(1) その文献が電子ジャーナルで利用可能かどうか、(2) 学内に印刷版の所蔵があるかどうか（ISSNや誌名のリンクからKULINEを検索）、(3) 文献が学内で利用できない場合の取り寄せ申込み画面へのリンク、などを表示する機能がある。筆者はILL依頼担当でもあるのだが、近年、多くの雑誌が電子ジャーナルで利用できた

め、依頼された文献が日本語の場合は医中誌Webを、英語の場合はPubMedを再検索し、その検索結果に表示される京大Article Linkerで、まずフルテキストの利用可否を確認している。この手順は、教員に文献収集を頼まれる秘書さんにとっても有用と考え、リンクリゾルバを活用してほしいと伝えた。

5) 文献の取り寄せ方法

学内で手に入らない文献は、学外からの取り寄せが可能である（ILLサービス）。先述の京大Article Linkerを経由して申し込めば、データベースの文献情報が自動的に申込み画面に埋め込まれるため、論文情報を入力する手間が省ける。文献情報の正確性と、申込みの利便性からもぜひウェブでの申込みを使ってほしいと伝えた。

以上1)～5)の解説について実習を交えて進行し、教員から文献収集を依頼された場合に、どんなツールをどのように使えばよいのかを確認してもらった。



写真. 講習会の様子

4. 受講者からの質問

第1回の質疑応答部分で、インパクトファクターの調べ方や、欧文雑誌の略誌名から正式名を知る方法等について質問が出た。インパクトファクターについては、教員の業績リストに記載するため、毎年数値を確認し直す必要があるという理由だった。こちらについては、本学で利用可能なJournal Citation Reportsを使った確認方法を紹介した。また、欧文雑誌の略誌名から正式名を知る一例としては、PubMedのリンクにある「Journals in NCBI Databases」を使えば、略誌名と正式名のいずれからでも確認できることを伝えた。その後も開催回数を重ねるたびに様々な質問が出たため、随時配付資料を見直し、質問に答える内容に改訂していった。

5. 受講人数

2012年10月に4回開催したが、勤務日の関係で参加を断念したという秘書さんや、定員オーバーでお断りした方もいたため、11月にも2回開催し、計6回、のべ40人の受講者（39名が秘書、1名が診療放射線技師）を迎えることができた。

6. アンケート

講習会の終了後、受講者にアンケートの記入を求めた。従来の講習会では、終了時に紙のアンケートを配付していたが、今回は研究室に帰ってからゆっくり書いてもらえるようにWebフォーム（Googleドライブのフォームを利用）を用意した。アンケートは、受講者へメールで回答先を案内し、回答期限を1週間後として依頼した。なお、Googleフォームで作成したアンケートのURLは、Google URL Shortenerを使用して作成した短縮URLを案内用に使った。

項目は、1) 今回の講習会で「最も重要だと思った点」「理解が深まった点」は何か（自由記述式）、2) 講習会の満足度、3) 今後当館で開催を希望する講習会、の3点とした。アンケートの回答はリアルタイムでGoogleドライブから確認できることから、筆者および補助者を務めた職員でアカウントを共有し、閲覧した。

全6回終了後にアンケート結果の集計を行ったところ、回答数は31（回収率77%）であり、次のような結果となった。

1) 「最も重要だと思った点」「理解が深まった点」

KULINEの検索実習で解説した、前方一致や完全一致検索の方法や、リンクリゾルバの有用性を指摘する感想が多い中、「今まで自己流で遠回りをして調べていたことを効率よく調べる方法を順序立てて教えていただき、頭の中をすっきり整理することができました」といった意見も複数人からあがった。

2) 講習会の満足度

満足度を評価してもらったところ、「満足した」という回答が30人で96%だった。なお、「少人数制で質問しやすかった」「スタッフが親切だった」という感想もあり、知りたかったことを知ることができた、という一定の満足感を持ってもらえたようであった。

3) 今後当館で開催を希望する講習会

今後当館で開催してほしい講習会について、選択式で尋ねたところ次のような結果となった（図2）。「教員から頼まれる論文はいつも欧文」「国内の論文を検索することはほとんどないので、英語論文に絞ってもらった方

が実践的」という意見もあり、PubMedの検索方法習得についてのニーズを改めて認識する結果となった。文献管理ツールについては、具体的な質問等は出なかったものの、秘書さんの業務を一層効率化させる可能性を秘めたツールとして関心が寄せられていることがわかった。

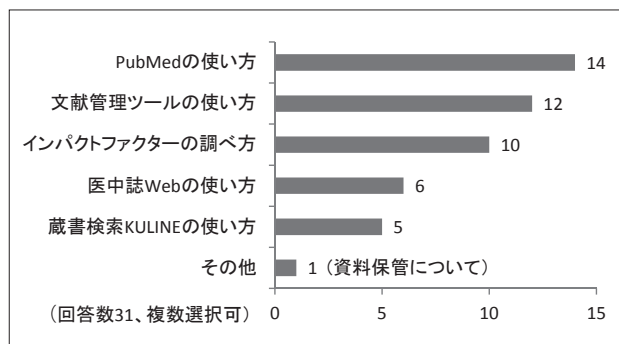


図2. 今後当館で開催を希望する講習会

また、その他にも「秘書さんのための…という名前がよかったです。研究者でもないのに図書館の講習会に参加することに抵抗を感じていたのですが、今回は秘書のための講習会なので素直に申込みやすかったです」、「普段お会いする事のない他科の秘書さんともお会いできとても良い機会でした」といった、好意的な意見をいただくこともできた。

IV. 開催後のフォローアップ

講習会終了後、配付資料のPDF版と、会場でのQ & A

を整理したものを、当館ウェブサイトに掲載し（学内限定アクセス）、講習会に参加していない秘書さんにも内容を共有してもらえるようメールで案内した。

V. さいごに

後日、講習会に参加していた秘書さんから、「教えてもらったことをさっそく実践しています」と声をかけていただいたり、文献取り寄せのウェブ申込み機能が便利だという感想をくださる方もいたり、予想以上の成果が表れている。

アンケート結果から、「もう一歩進んだ内容を中級編、上級編として開催してほしい」という声もあり、今後も受講者のニーズを把握し、継続的な取り組みとして開催していきたいと考えている。

参考文献

- 1) 北川昌子. 京都大学医学図書館における情報リテラシー教育への取り組み. 医学図書館. 2005;52(1):36-41.
- 2) 北川昌子. 文献管理ソフトEndNoteおよびEndNote Webの講習会開催事例. 医学図書館. 2007;54(3):223-8.
- 3) 次の資料を補足資料として配付した。独立行政法人科学技術振興機構. 参考文献の役割と書き方：科学技術情報流通技術基準 (SIST) の活用 [internet]. http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf [accessed 2013-05-21]
- 4) PubMed 京大専用入口 [internet]. <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed?otool=ijpctolib> [accessed 2013-05-30]
- 5) Home - PubMed - NCBI [internet]. <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed> [accessed 2013-05-30]

Report of the Library Workshop for Secretaries Held at the Kyoto University Medical Library

Kaori KIKUCHI

Kyoto University Medical Library. Yoshida-Konoecho, Sakyo-ku, Kyoto City, Kyoto 606-8501, Japan

Abstract: This article reports on a library workshop for laboratory secretaries held at the Kyoto University Medical Library. The Medical Library traditionally offers library orientations, instructions on searching medical literature through classes with faculty members, and library workshops on bibliographic database or reference management software. These services are mainly offered to students of the graduate school of medicine and doctors at the university hospital. In practice, however, many laboratory secretaries search and collect medical literature on behalf of students and doctors.

Previously, secretaries had to perform such literature searches without any basic knowledge of how to do so because they did not have the opportunity to participate in library workshops. In this article, we report on the first library workshop held for secretaries in 2012.

Key words: Education; Libraries, Medical; Information Literacy; Library Services; Kyoto University (*Igaku Toshokan*. 2013;60(3):309-312)